令和７年３月
ぬくい南幼稚園

とうきょう すくわくプログラム活動報告（体操/運動）

１．活動のテーマ
＜テーマ＞
体操・運動

＜テーマの設定理由＞
・年間を通じて運動を楽しむ
・自分の体の使い方を知る
・挑戦する気持ち、できたことへの達成感を味わう

２．活動スケジュール
年間を通じて　体全体の使い方（徒手運動、バランス感覚、マット運動）

４～６月　　マット運動　フープを使った遊び　巧技台との組み合わせた運動
７月　　プール（水遊び）
９～１０月　運動会に向けて
　　年中児　かけっこ　たまいれ　はたたいそう
　　年長児　リレー　つなひき　組体操
１１～３月　なわとび　てつぼう　ルールのあるゲーム

３．探究活動の実践
＜活動の内容＞
○準備した道具・環境設定等
・ホール（室内）の床の段差をなくし、滑りにくく運動に適した素材に改修
・跳びばこ、マット、フラフープ、ボール、運動会で使う競技の道具等の準備
・プールの遊び道具、衛生環境の整備
・運動指導について、専門の先生を外部委託して準備した
○活動の実績
・学年、クラスごとに指導をし、指導の先生、担任ほか、複数の教諭の目でみて、足りない部分を補い、子供たちが成長を感じられるよう指導した。
・運動の時間で学んだフラフープやなわとびなどは、自由遊び中にも活動する子どもがいて、新たな発見があった。

・出来なかった運動が出来るようになったら、教員に「見てー！」と職員室の前で披露する園児もおり、達成感や喜びを表現していた。
・なわとびチャンピオンを決めていた時には、自分はすぐにつっかえてしまったけれど、「あのお友だちはすごい！」と、お互いに認め合うことができ、心の成長がみてとれた。
なわとびを跳べる子は、苦戦している子に教えてあげる姿が見られた。
・たまいれではどうやったら球がたくさん入るかを相談し、投げ方、狙い方を相談しあっていた。

４．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・得手不得手はあるものの、子どもたちは大いに興味を持って参加していた。
・運動専門の指導の先生の声掛けや、きっかけの作り方、どうすればできるようになるかの方法が、とても参考になった。また運動の先生と子どもたちの間にも関係ができ、普段の保育にも良い影響があった。
・競争や、的あてなど目標があると、子どもたちは意欲的に参加する。
しかし、負けて悔しい気持ちを引きずる、負けるからやらない、という子どもが増えてきているように感じた。
気持ちの切り替えがしにくい子どもへの対応が難しく、普段の保育から、モチベーションの上げ方や、気持ちの切り替えについて指導した。
・体の使い方が上手にできず、体力のない子どもが多い。
・自由遊びで体を動かす機会が少なかった（今年度は夏が暑く、外で遊ぶ時間が特に少なかった）